

様々な経験から学ぶことができ、私を成長させてくれたサービスマーケティング

活動先：親子の広場あんだんて

1. 活動に行く前の学習準備

前期は主に自分の行く活動先の事前学習をやり、前期の終わり頃には活動先の人達との対面を行い、気晴らしみたいな感じで他己紹介もやった。初めの頃は、同じ活動先のもう一人のメンバーと、なかなか上手く話し合いが上手く進まなく、人間関係的にも気が合わなく、これからやっていけるのかが心配になったのである。しかし、だんだんお互いが、お互いの意見を尊重し、調べたりすることも協力し合うようになってからは、順調に学習も進むようになったのである。一人よりも二人の方が、効率よく独創的なアイデアもたくさん浮かんでくるので、メンバー内で協力し合うことはとても大切であり、そして、信頼関係も生まれてくるのであると気づいた。

活動先の人達が来所し、初めて対面したときは、凄く面白く陽気な方達であると感じた。私達のグループで考えた少し無理が生じる活動プランも快く受け入れてくれて、さらに、もっと面白いことができないかということと一緒に考えてくれたのである。前向きに頭を柔らかくして考えることが、プランニングする上で大切なことであると気づいた。

他己紹介では、お互い自己紹介し合った相手を自分が他の人に紹介するというものであった。やってみて、紹介する人のいい所を見つけることが簡単そうで案外難しかった。コミュニケーションをしっかりとることによって、その人の性格や長所というのが見えてくるのであり、コミュニケーションの大切さを学ぶ良い機会であった。他己紹介が上手くできる人は、他の人とのコミュニケーションも上手く取れるのであると気づいた。

これらの前期の学習を通して、事前学習の大切さや活動先のメンバーとの協力、コミュニケーション能力などを学ぶことができ、夏休みの活動へ行く前に、私自身少し成長できたのではないかと感じた。

2. NPO の活動

夏休みの NPO の活動では、五日間という短い間であったが、大学の講義では得ることができない学びや、私にとって大きな経験にもなったのである。

一日目や二日目は子供達がなかなか言うことを聞いてくれなかったり、喧嘩する子やワガママを言う子がいて私はまだ子供達に信頼されていないのであると気づいた。もっと自分から積極的に子供達と関わっていかないと、子供も関わってきてくれないと考え、コミュニケーションの取り方から考え直したのである。

悪いことをしたから子供を怒るのではなく、なんでその子は悪いことをしたのかを考えることも大切であると気づいたし、遊びをやるにしても、子供の視点から考えることが必要であり、まず、子供から信頼される存在にならなければいけないと気づいた。そのようなことを心がけるようになってからは、子供達も少しづつなついてくれるようになり、喧

嘩やワガママなことを言う子も減っていき、子供達も成長しているのであると、気づくことができ嬉しかった。

三日目や四日目になると、子供達も他の子のことを考えて行動したり、順番を守るということができるようになって、協調性も身につけてきていると気づいたのである。

活動を通して、最初は子供と上手く遊んだり、話すことができなくて不安であったけど、積極的にコミュニケーションを取り、子供達のことを知ろうとすることにより、そのような不安がなくなったことは自分の成長の証であると考えた。五日間は短かったが、子供達の成長を身近で感じることができて、子供の魅力というのも学ぶことができた。大変なこともあったが、楽しいこともあって自分にとって良い経験をさせてもらった。

3. 活動を終えての振り返り

後期では夏休みの活動の振り返りを主にやり、そして、さらに学びを深めたいことを研究し、そして、最後に活動報告会を行った。

活動の振り返りでは、活動内容を整理して学んだことや課題、疑問などについて考え、学んだことも多かったけど、課題や疑問というのも多いということに気づいた。

研究については、遊びについて学びたいと考えレクリエーションを選び、私は援助者の人間的資質について調べ、活動先ではどうであったかを研究した。レクリエーションについて研究したことにより、レクリエーションを通しての人間関係の築き方ということを学ぶことができて、来年の実習や課外活動など幅広い場で使えると気づいた。

これらの後期の学びを通して、後期は特に発表が多かったので、みんなの前で話すという、プレゼンする力がついたことが成長であると感じた。前期は事前学習をやったが、後期は振り返りということをやリ、事前学習も大切であるが、振り返りというのはそれ以上に大切であると気づいた。

4. 活動先が取り組んでいる社会の関わり・社会課題

あんだんてでの活動を通して、人と人との関わりを大切にしているのであると気づいた。あんだんての室内にあるおもちゃは、ほとんどボランティアの人の手作りであり、活動中も風車や水鉄砲作り、流しそうめん、バーベキューなどもボランティアの協力を得ているのである。あんだんてにとって、ボランティアは欠かせない存在であり、大切な役割を果たしているのであると気づいた。

あんだんてがある東浦という地域では、外で子供の遊ぶ場所が少なく、集団で遊ぶということを苦手にしてしている子供が、大半であると感じた。集団遊びというのは、喧嘩や揉め合いということが起きてしまいやすいのであるが、それにより子供も協調性や人間性を身につけることのできるの、子供にとってはなくてはならない遊びであると気づいた。だから、地域で子供達が遊べる空間を提供することが社会課題であると考え。あんだんてが子育て支援事業だけでなく、夏休みの活動のような学童保育事業も行えられたら、地域活動にさらに貢献すると気づいた。